

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEAN の学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-net プロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学を、ASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

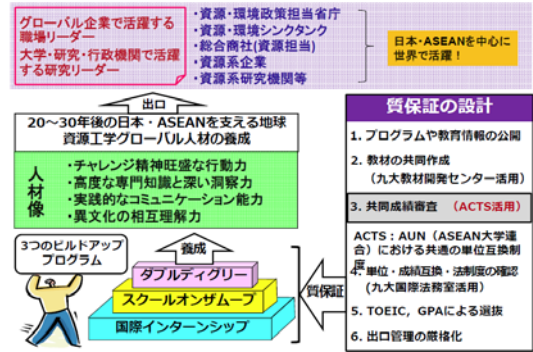
【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

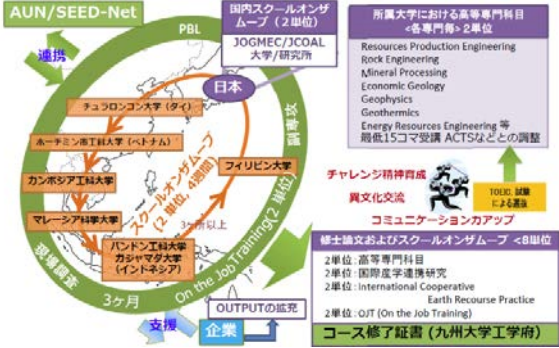
日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

〈本プログラムの内容と目標〉



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈スクールオンザムーブの概念と構成〉



【国際インターンシップ】

サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。

【スクールオンザムーブ】

連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。

【大学院ダブルディグリー】

共同教材作成、ACTSを活用した専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。

【開始に向けた準備状況】

平成24年8月までに国内外の8大学と本プログラムに関する協定を締結している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

【日本人学生の派遣】

「国際インターンシップ」は平成24年度から15名、「スクールオンザムーブ」は平成25年度から20名、「大学院ダブルディグリー」は平成26年度から2名、ASEANの7大学にそれぞれ派遣する。

【外国人留学生の受入れ】

「国際インターンシップ」は平成26年度から15名、「スクールオンザムーブ」は平成25年度から20名、「大学院ダブルディグリー」は平成26年度から3名、ASEANの7大学および日本の2大学にそれぞれ派遣する。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	15	35	37	37	37
学生の受入	0	20	38	38	38

(注)申請時の計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスを新設し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)、キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行う。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

【ホームページを活用した情報の発信】

九州大学工学府のホームページ内に本プログラムの独自サイト(日・英語で提供)を立ち上げるとともに、本学国際部や関係機関等のホームページにリンクをはり、積極的に事業内容を公表し、透明性を持って推進する。

【報告会・シンポジウム等を利用した情報公開と普及】

本コンソーシアム主催の学生・教員による国際シンポジウム、サマースクールへのASEAN企業体の参加、ASEAN地球資源工学同窓会の設立等により、各大学の関係者や学生、産業界への普及を図る。

【プログラムの展開・普及】

サマースクールやスクールオンザムーブの国内外の大学へのオープン化、本プログラムの成果に基づく日・ASEAN大学コンソーシアムで「国際連携大学院」を設立し、本プログラムを全ASEAN諸国へ拡大展開する。

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

## 【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEANの学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-netプロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学を、ASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

### 【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

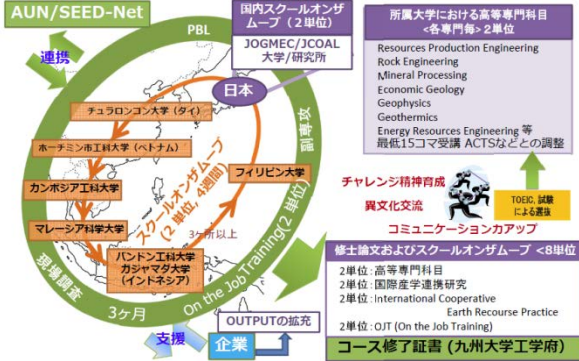
将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

### 【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### 〈スクールオンザムーブの概念と構成〉



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 【日本人学生の派遣】

「国際インターンシップ」は平成25年度から15名、「スクールオンザムーブ」は平成25年度から20名、「大学院ダブルディグリー」は平成26年度から2名、ASEANの7大学にそれぞれ派遣する。平成24年度には「国際インターンシップ」15名をタイに派遣した。

### 【外国人留学生の受入れ】

「国際インターンシップ」は平成26年度から15名、「スクールオンザムーブ」は平成25年度から20名、「大学院ダブルディグリー」は平成26年度から3名、ASEANの7大学および日本の2大学にそれぞれ派遣する。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスを新設し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)、キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行う。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### 【ホームページを活用した情報の発信】

九州大学工学府のホームページ内に本プログラムの独自サイト(日・英語で提供)を立ち上げるとともに、本学国際部や関係機関等のホームページにリンクをはり、積極的に事業内容を公表し、透明性を持って推進する。

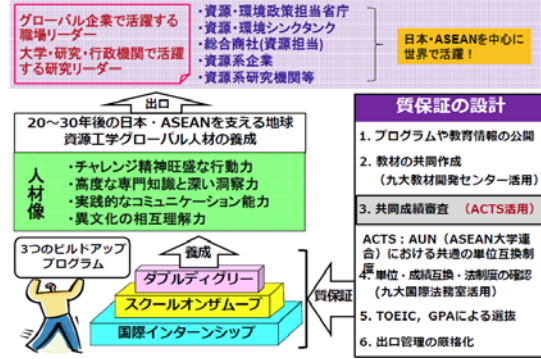
### 【報告会・シンポジウム等を利用した情報公開と普及】

本コンソーシアム主催の学生・教員による国際シンポジウム、サマースクールへのASEAN企業体の参加、ASEAN地球資源工学同窓会の設立等により、各大学の関係者や学生、産業界への普及を図る。

### 【プログラムの展開・普及】

サマースクールやスクールオンザムーブの国内外の大学へのオープン化、本プログラムの成果に基づく日・ASEAN大学コンソーシアムによって「国際連携大学院」を設立し、本プログラムを全ASEAN諸国へ拡大展開する。

### 〈本プログラムの内容と目標〉



### 【国際インターンシップ】

サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。

### 【スクールオンザムーブ】

連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。

### 【大学院ダブルディグリー】

共同教材作成、ACTSを活用した専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。

### 【開始に向けた準備状況】

平成25年1月にキックオフセミナーを開催し、国内外の8大学と本プログラムに関する協定を締結している。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	37	60	62	62	62
学生の受入	22	30	48	48	48

注)H24は実績、H25以降は計画

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

## 【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEAN の学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-net プロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学を、ASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

### 【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

### 【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### 【国際インターンシップ】

サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。平成25年度は、8月下旬から9月初旬にかけ九州大学でサマースクールを行った。またインドネシア、タイ及びフィリピンへインターンシップ生を派遣した。

### 【スクールオンザムーブ】

連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。平成25年度は9月-12月の期間にインドネシア、タイ及び日本の3か国で行った。

### 【大学院ダブルディグリー】

共同教材作成、ACTSを活用した専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。平成26年度本格実施に向け協議を行い、準備にとりかかっている。

〈平成25年度スクールオンザムーブ〉



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 【日本人学生の派遣】

平成25年度における「国際インターンシップ」は8名、「スクールオンザムーブ」は延べ人数42名を派遣した。平成26年度は、「国際インターンシップ」15名、「スクールオンザムーブ」20名、「ダブルディグリー」2名の予定である。

### 【外国人留学生の受入れ】

平成25年度における「国際インターンシップ」は9名、「スクールオンザムーブ」は21名を受入れた。平成26年度は、「国際インターンシップ」15名、「スクールオンザムーブ」20名、「ダブルディグリー」3名の予定である。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	37	50	62	62	62
学生の受入	22	30	48	48	48

注) H24・H25は実績、H26以降は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスを新設し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)、キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行っている。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### 【ホームページを活用した情報の発信】

九州大学工学府のホームページ内に本プログラムの独自サイト(日・英語で提供)を立ち上げ、本学国際部や関係機関等のホームページにリンクをはり、積極的に事業内容を公表し、透明性を持って推進している。

### 【報告会・シンポジウム等を利用した情報公開と普及】

本コンソーシアム主催の学生・教員による国際シンポジウム、サマースクールへのASEAN企業体の参加、ASEAN地球資源工学同窓会の設立等により、各大学の関係者や学生、産業界への普及を図っている。

### 【プログラムの展開・普及】

サマースクールやスクールオンザムーブの国内外の大学へのオープン化、本プログラムの成果に基づく日・ASEAN大学コンソーシアムによって「国際連携大学院」を設立し、本プログラムを全ASEAN諸国へ拡大展開する。

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEAN の学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-net プロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学をASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

【国際インターンシップ】 サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。平成26年度は、8月下旬から9月初旬にかけてインドネシア ガジャマダ大学でサマースクールを行った。またインドネシア及びフィリピンへインターンシップ生を派遣した。

【スクールオンザムーブ】 連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。平成26年度は9月-12月の期間にフィリピン、インドネシア、日本及びカンボジアの4か国で行った。

【大学院ダブルディグリー】共同教材作成、ACTSを活用した専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。平成26年度10月からバンドン工科大学の学生を1名受入れている。

〈平成26年度サマースクール〉



〈平成26年度  
スクールオンザムーブ〉

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

【日本人学生の派遣】 平成26年度における「国際インターンシップ」は14名、「スクールオンザムーブ」は延べ人数48名を派遣した。平成27年度は、「国際インターンシップ」15名、「スクールオンザムーブ」20名、「ダブルディグリー」2名の予定である。

【外国人留学生の受入れ】 平成26年度「スクールオンザムーブ」26名、「ダブルディグリープログラム」1名、インターンシップ等で8名受け入れた。平成27年度は、「スクールオンザムーブ」20名、「国際インターンシップ」15名、「ダブルディグリー」3名の予定である。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	37	50	62	62	62
学生の受入	22	30	27	48	48

注)H24・H25・H26は実績、H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスの新設し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)、キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行っている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

【構想の実施に伴う大学の国際化の状況】

ASEAN連携大学と国内大学の学生が英語によるプログラム受講、討論、発表、視察を行い、学生間の交流を深めながらお互いに刺激を受け、国際化の底上げにつながっている。また、当プログラムに参加することで、英語による発表、レポート提出が必須であり、参加していない他学生への波及効果も大きく、例えば海外での学会に積極的に参加している。

【情報の公開・成果の普及】

大学の広報等に積極的にプログラム紹介を掲載している。年間を通したプログラムの様子を事業報告書にまとめ、参加大学・省庁等へ配布している。毎年行われている地球資源工学の国際学会では、当プログラムのセッション等を設け、各国の学会参加者や研究者への本プロジェクトが周知され、様々な大学での取組等の情報交換も可能にしている。また国際インターンシップ協力企業や、サマースクール等の視察に協力してくれた各国の企業等へ成果もアピールしている。

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

## 【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEAN の学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

## 【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-net プロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学をASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

## 【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

## 【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

平成27年度  
サマースクール

【国際インターンシップ】 サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。平成27年度は、8月下旬にタイ チュラロンコン大学でサマースクールを行った。またインドネシア及びフィリピンへインターンシップ生を派遣した。

【スクールオンザムーブ】 連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。平成27年度は9月-12月の期間にマレーシア、ベトナム及び日本の3カ国で行った。

【大学院ダブルディグリー】共同教材作成、ACTSを活用した専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。平成27年度は8月からバンドン工科大学へ2名派遣をし、10月からガジャマダ大学から2名学生を受入れている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

【日本人学生の派遣】 平成27年度における「国際インターンシップ」は16名、「スクールオンザムーブ」は延べ人数44名、「ダブルディグリープログラム」は2名を派遣した。平成28年度は、「国際インターンシップ」15名、「スクールオンザムーブ」20名、「ダブルディグリー」2名の予定である。

【外国人留学生の受入れ】 平成27年度「スクールオンザムーブ」29名、「ダブルディグリープログラム」3名受け入れた。平成28年度は、「スクールオンザムーブ」20名、「国際インターンシップ」15名、「ダブルディグリー」3名の予定である。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	37	50	62	62	62
学生の受入	22	30	27	32	48

注)H24・H25・H26・H27は実績、H28は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

## 【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスを設置し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)、キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行っている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

## 【情報の公開・成果の普及】

大学内・外のセミナー、会議、機関誌等で積極的にプログラム紹介や成果の普及を行っている。年間を通したプログラムの様子を事業報告書にまとめ、参加大学・省庁等へ配布している。毎年行われている地球資源工学の国際学会では、当プログラムのセッション等を設け、各国の学会参加者や研究者への本プロジェクトが周知され、様々な大学での取組等の情報交換も可能にしている。また国際インターンシップ協力企業や、サマースクール等の視察に協力してくれた各国の企業等へ成果もアピールしている。

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムで養成を目指す「地球資源工学グローバル人材像」は、①チャレンジ精神旺盛な行動力、②高度な専門知識と深い洞察力、③実践的コミュニケーション能力、異文化の相互理解、を備えた人材である。

【構想の概要】

地球資源工学分野で、日・ASEAN の学生が質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学および早稲田大学(日本)と海外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

【日・ASEANコンソーシアム】

「アジア重視戦略」を展開する九州大学と早稲田大学が、AUN/SEED-net プロジェクトを通して連携を築き上げたチュラロンコン大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学をASEANコア大学として他のASEAN 4大学に発展させた実質的な教育研究連携と交流が可能なコンソーシアムである。

【学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラム】

将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つのプログラムであり、IEFWリーダー委員会がコース修了証を授与する。

【単位の相互認定や成績管理、学位授与のプロセス】

日・ASEAN大学コンソーシアム内にIEFWリーダー委員会と各大学にIEFW委員会を設置し、本プログラムの企画、実施、評価と改善、成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



平成28年度スクールオンザムーブ

【国際インターンシップ】 サマースクールによる事前教育、協力企業約40社を通じた現場でのフィールド調査の実施により単位を修得するプログラムである。平成28年度は、8月中旬にインドネシア バンドン工科大学でサマースクールを行い、インドネシア、タイ及びフィリピンへインターンシップ生を派遣した。

【スクールオンザムーブ】 連携大学間で約半年の事前教育、1ヶ月の移動型教育、最長3ヶ月の調査研究により単位を修得するプログラムである。平成28年度は7月-10月の期間にタイ、インドネシア及び日本の3カ国で行った。

【大学院ダブルディグリー】 共同教材作成、専門教育科目の単位認定、論文研究の共同審査等を確立し、質保証を伴った学位を授与するプログラムである。平成28年度は昨年度から引き続きバンドン工科大学へ2名派遣、10月にはガジャマダ大学から1名学生を受入れている。



平成28年度 サマースクール

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

【日本人学生の派遣】

平成28年度における「国際インターンシップ」は17名、「スクールオンザムーブ」は延べ人数43名、「ダブルディグリープログラム」は2名を派遣した。

【外国人留学生の受入れ】

平成28年度「スクールオンザムーブ」38名、「ダブルディグリープログラム」3名受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	37	50	62	62	60
学生の受入	22	30	27	31	39

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

【日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備】

教職員一体の支援組織としてCampus ASEANオフィスを設置し、全学組織である外国人留学生・研究者サポートセンター(ワンストップサービス)キャリアサポート課就職相談室、留学生センター等と連携するとともに、日・ASEAN各大学にIEFW委員会を設置し、きめ細やかな修学指導、在籍管理、生活・就職支援を行っている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

【情報の公開・成果の普及】

大学内・外のセミナー、学会、会議、機関誌等で積極的にプログラム紹介や成果の普及を行っている。年間を通じたプログラムの様子を事業報告書にまとめ、参加大学・省庁等へ配布している。毎年行われている地球資源工学の国際学会において、当プログラムのラップアップセミナーを開催し、これまでの実績や成果を各国の学会参加者や研究者に広く周知し、様々な大学での取組等の情報交換を可能にしている。また国際インターンシップ協力企業や、サマースクール等の視察に協力してくれた各国の企業等へ成果もアピールしている。